

生活相談所
加藤鉦一(宝徳)
TEL0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」
と検索で入力を。

発行経費にカンパをお願いしています。民報
配布者にご連絡下さい
(月177円程度)
7月 39人 39,435円
6月 23人 50,685円



自治体の臨時・非正規職員 産休・育休、雇用中断、再応募など 7月4日 総務省通知で改善

鶴岡市の職員数は病院を除き正職員が1340人、臨時・非正規職員が約600人で全職員の3割を占めています。総務省は7月4日、公務員部長名で「臨時・非常勤職員及び任期付職員の任用等について」を地方自治体、人事委員会に通知しました。前回(平21・4・24

では、この間の法律改正などにもとづいて、年休、産休、育児・介護休暇を整備するよう求め、雇用中断(空白期間)による年休リセット、社会保険・労働保険の被保険者資格の問題についても「勤務の実態に即して判断」することに留意するよう求めています。

空白期間の撤廃

「再度の任用」については、空白期間撤廃を求める運動と国会での議論を反映して、「空白期間設定」の根拠について「地方公務員法をはじめとした関係法令において存在しない」ことを明記しました。

年休、産休、育休

臨時・非常勤職員の「勤務条件等」につい

再任用の制限撤廃

募集にあたって「任用の回数や年数が一定数に達していることのみを捉えて、一律に応募要件に制限を設ける

ことは、平等取扱いの原則や成績主義の観点から避けるべき」と明記しており、再任用の制限が撤廃されています。また、業務の継続性を踏まえ「公募により難しい場合や公募による必要がない特定の場合

を除き」といったケースがあることが記されています。臨時・非正規職員に対しても正職員との均等待遇原則を具体化し、短時間の職を担う「任期の定めのない短時間公務員制度」を確立することが必要です。

藤島義民顕彰板建立4周年



星野正紘氏(右)と成澤功氏

ワツパ騒動「藤島義民顕彰板建立4周年のつどい」が22日、藤島地区活動センター(藤島公民館)で開かれ、成澤功氏(中町)と星野正紘氏(ワツパ騒動義民顕彰会事務局長)が講話しました。

「ワツパ騒動140周年記念講演会」は9月20日、午後1時30分から東京第一ホテル鶴岡で開かれ、渡前の五所神社獅子踊りも出演する予定です。

星野氏は、今年がワツパ騒動140周年にあたることから、俳優の菅原文太さんを記念講演会の講師に招く



『自衛隊員が泣いている』 派兵自衛官 自殺40人

—「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

しんぶん赤旗7月13日付1面トップである。2001年からアフガン・イラク戦争に派兵された自衛官（延べ人数2万2530）の自殺者が、今年3月末で40人にのぼることが分かった。この自殺率は、国民平均の約3〜10倍、自衛官全体と比べても約2〜10倍も高い。実人数との比率はもって高くなるだろう。背景には何があるのか。派兵先の宿营地付近への迫撃砲やロケット弾の攻撃など戦闘地域での恐怖によるストレスなどが考えられる。また、標記本の著者でジャーナリスト・三宅勝久氏は、「根底には、気に入らない部下を派遣させる、帰国後にケアもしないといった、階級の低い隊員を人間扱いしない、旧軍以来の体質がある」とも。翌日の同紙14日付は、戦闘地域に行く可能性が高い「第1空挺団」員の父親が寄せた思いを、やはり1面トップで載せている。真つ先

に息子が戦争に取られると、除隊を勧めたが、「仲間を裏切れない」とかたくなな返事。今からでも集団的自衛権行使容認を撤回させられないかと悲痛の訴え。15日付は、昨日国会で安部首相が、戦闘地域に行く可能性があると共産党笠井亮議員への答弁を報じている。「戦争する国」への暴走だ。



町内会で敬老会

この程町内会長（本間正美氏）主催の「寿・敬老お祝い会」が町内公民館で開かれた。早い話が部落で開く敬老会である。

▼私はその年になったということ初めて招待されたのだ。招待該当者は80人程だが、お年のセイでとか親戚の不幸で喜んでいられない卜力で、6割を欠く参加者だった。

▼こんな行事が集落で開かれるし招待を受けるなんて幸せなことだと喜んで参加した。

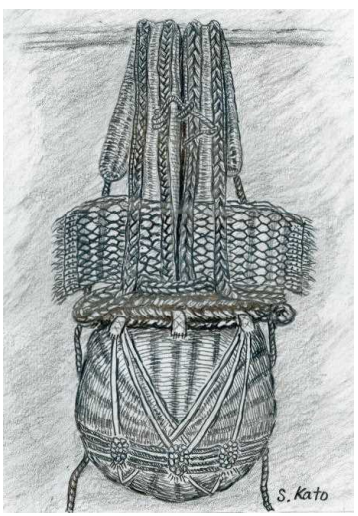
一方が88歳を筆頭にしてお夫婦で参加できる幸せ者が7組あった。

▼招待だから参加費は不要でご馳走になれるのだ。昨年までは近くのお楽しみ時間だったが、今回は町内の芸達者を頼んでの会だった。

▼お年寄りを喜ばせる

昭和まで負いしぼんどり風薫る

工藤 博司



(画・加藤貞雄)

「ぼんどり」は、「やせうま」「やぎ」などと呼ばれたものと同じように、重い荷を背負う際、その重量が直接身体にかからないようにやわらげるための負い道具。

歴史は古く、もちろん全て手製。おそらく初期の素朴なつくりからだんだん手の込んだものに発展したのであろう。お祝いの荷を運ぶときに用いた「祝ぼんどり」は、藁の他に、色彩もあざやかな裂き布を使って豪華に編みあげられる。

今ではもう「資料館」や、喫茶店、そば屋、個人宅の壁飾りとして重宝がられている。

長い歴史を通して、労働を支え、その苦難を少しでもやわらげようとした存在には敬意に似た思いが伴う。風薫る季節なればその思いはさらに募るといふもの。

この会は、町内会役員その他老人クラブの役員など町内会で日頃ご苦労いただいている各種役員のご苦労によるものだが、民生委員など女性の皆さんには朝早くから昼食となる五目ズシを手づくりしてお祝いだ。

▼集まった方々は、年の順に座るから、同じ町内会と言っても日頃話をはずませることのない人が隣りになるも乾杯が終われば話題がつきないニギヤカサ。お隣りさん、足が悪いから車に載せてきたからジュースという人もいて、これが町内会の良さだろう。

▼こんな会に参加できる年になって良かった。先輩の年になるまで元気で参加できるようにしよう。というのが参加させてもらった新入生3人を代表しての私の挨拶である。

▼オレの年か、上町は数え73からの招待なんです。(石川)